

アマチュア (1979)

AMATOR

メディア 映画
ジャンル サスペンス
製作国 ポーランド
色彩 Color
時間 112分
初公開日 1990/04/27
公開情報 シネカノン
リバイバル 2003/03/30 [ビターズ・エンド]

【キャッチコピー】

ポーランド映画の新しい波
レンズの向うは、いつも優しく哀しい。

【解説】

今や母国ポーランドを飛び出して活躍する、「トリコロール」三部作のキエシロフスキーの名を一躍世界に轟かせたのがこの作品。主人公モスは妻子にも仕事にも恵まれた平凡な男。ある日彼は、娘の誕生日を祝うために訪れた友人たちに、旧式の8mmカメラがある事を指摘される。それは娘の成長の記録を残すため給料2ヶ月分をはたいて彼が購入したもので、当然妻はいい顔をしない。さて、勤務先の工場長に、そのカメラで工場の25周年記念式典を撮るよう依頼されたモスは大いに張り切るが、目に映るすべてをフィルムに収めることにとらわれた彼は、当日、音楽家とのギャラのやり取りやトイレに入る幹部の姿まで記録してしまい、大目玉を喰らってそのカットを要求される。しかし、この作品をたまたま観たアマチュア映画協会の役員アンに、カット部分を含めての映画祭出品を勧められ、それが運良く入賞までしてしまったものだから、ますます彼のカメラ狂は高じて、職場での立場も夫婦仲もどんどん悪くなっていく……。最初はただいたずらにカメラを回しているだけの主人公がだんだんと作品製作の理論を身につけていく様を皮肉に描いて、表現するというコミュニケーションとその孤立、押しつけにも陥る危険をあぶり出すキエシロフスキーの人間洞察は見事。「太陽の年」などで知られるクシシュトフ・ザヌーシ監督が実名で顔を出している。

【クレジット】

監督 クシシュトフ・キエシロフスキー Krzysztof Kieslowski
原作 クシシュトフ・キエシロフスキー Krzysztof Kieslowski
脚本 クシシュトフ・キエシロフスキー Krzysztof Kieslowski
イエジー・シュトゥル Jerzy Stuhr
撮影 ヤツェク・ペトリツキ Jacek Petrycki
音楽 クシシュトフ・クニエツテル
出演 イエジー・シュトゥル Jerzy Stuhr
マウゴジャータ・ジャブコウスカ